



## 「福岡県交通ビジョン2022」の策定にあたって

本県は、九州・西日本のゲートウェイ（玄関口）機能を担う「福岡空港」、24時間利用可能な海上空港である「北九州空港」や、国際拠点港湾である「博多港」と「北九州港」、重要港湾である「苅田港」と「三池港」、さらには、縦横に走る高速道路、新幹線、基幹的道路といった、充実した交通インフラを有しています。

2017（平成29）年3月の「福岡県交通ビジョン2017」策定後も、福岡空港の民間委託による運営の開始や新北九州空港道路の開通など、県民生活と経済活動を支える交通インフラ整備は着実に前進しました。

また、平成筑豊鉄道のレストラン列車「ことごと列車」が運行を開始するなど、福岡県の新たな魅力が誕生し、観光をはじめ地域に大きな活力をもたらしています。



近年、交通を取り巻く状況も大きく変化しています。

社会のデジタル化の進展に伴い、交通分野においても、自動運転やAIなどの技術を活用したコミュニティバスなどの導入、先端技術を活用した環境対応自動車や先進安全自動車の普及が進んでいます。

そして、我が国は、2020（令和2）年に、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。本県においても、地球環境負荷の少ないグリーンな交通の実現を目指してまいります。

一方で、激甚化・頻発化する自然災害は、交通にも甚大な被害をもたらしており、平成29年7月九州北部豪雨により不通となっているJR日田彦山線添田駅～夜明駅間においては、2020（令和2）年7月に、彦山駅から宝珠山駅を専用道区間とするBRT（バス高速輸送システム）により復旧する方針が決定し、復旧作業が進められています。県民の皆さまの安全安心を守るため、災害に強い県土づくりに取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染拡大により、人々の生命や生活のみならず、経済、社会、人々の行動・意識に至るまで多方面に影響を及ぼすと同時に、交通事業は生活に不可欠なサービスであることが再認識されました。今後も、コロナ収束後を見据え、本県の将来を支える交通インフラの整備を着実に進めるとともに、住み慣れたところで「働く」「暮らす」「育てる」ことができる持続可能な交通の実現を目指してまいります。

「交通ビジョン2022」は、国、県、市町村といった行政機関はもとより、県民の皆さまをはじめ、交通事業者などあらゆる関係者が協働し、こうした交通施策を進めていくために策定したものです。

経済活動や県民生活を支える重要な社会基盤である交通がさらに発展するよう、皆さまの一層のご理解とご協力をお願いいたします。

令和4年3月

福岡県知事 服部 誠太郎

# 福岡県交通ビジョン2022目次

## 第1章 総論

1

- I 「交通ビジョン」策定の趣旨 ..... 2
- II 計画の性格 ..... 2
- III 計画期間 ..... 2
- IV 計画の構成 ..... 3

## 第2章 これまでの成果と交通を取り巻く状況の変化

5

- I これまでの成果 ..... 6
- II 交通を取り巻く状況の変化 ..... 28
- III 交通に関する県民意識 ..... 43

## 第3章 展開する施策

47

- I 施策の体系 ..... 48
- II 展開する施策の方向 ..... 49
  - 基本方針1 世界を視野に九州・山口の一体的発展を支える交通ネットワークをつくる ..... 49
  - 基本方針2 未来を見据え、「デジタル」「グリーン」な交通を展開する ..... 61
  - 基本方針3 住み慣れたところで「働く」「暮らす」「育てる」ことができる持続可能な交通をつくる ..... 67
  - 基本方針4 強靱で安全安心な交通を確保する ..... 75

## 第4章 施策の推進方策

83

- I 市町村との連携 ..... 84
- II 九州・山口各県との連携 ..... 85
- III 交通事業者との連携 ..... 85
- IV 成果の検証と新たな施策の検討 ..... 85

## ■ 施策目標

86

- 施策目標 ..... 86

## 付録

89

- 参考資料1 策定経過と策定体制 ..... 90
- 参考資料2 県交通年表 ..... 92